

## 2016年度 近畿地区手術看護認定看護師会 セミナー報告

大阪奈良和歌山ブロック

第2回 実践に活かす手術体位固定セミナー ～手術看護認定看護師と考えよう～ 2017年2月11日  
(日) in 大阪

クリニカルラダーレベルⅠ・Ⅱの手術室看護師を対象とし、手術体位固定セミナーを実施しました。参加人数は74名で「実際に体位固定を行い、その体験を活かし、現場につなげていきたいです。楽しい講義でした」「情報交換の場としても、よく質問することにより疑問が解決でき、スッキリした」といったご意見も頂き、有意義なセミナーとなりました。

第1・2回ともに参加申し込み開始直後に定員に達しました。このことから皆さんが日々手術体位固定について不安や疑問を感じていると改めてわかりました。

セミナーでは講義やハンズオン、さらに認定看護師や参加者同士の情報交換を通して、日々悩んでいることに対して解決できる一助になったのではないかと感じています。

手術体位固定は、外科医・麻酔科医・手術室看護師の役割の違いによるそれぞれの思いがあり、上手くいかないこともあるかと思えます。

他職種が何を求めているのかを知り、コミュニケーションを取りながら、患者様にとって一番良い手術体位固定を目指していきましょう。今後も手術体位固定セミナーを通して、皆さんと一緒に、より良い手術体位固定について考えていければと思っています

担当：手術看護認定看護師 瀧岡祐太（南奈良総合医療センター）



研修当日は寒い日で、インフルエンザの流行期でもあり参加者や認定看護師にも欠席者が数名見られてました。

研修会場では様々な施設の病院でグループになって集まり、熱気溢れる意見交換が行われていました。研修企画の新しい取り組みとして、研修当日の受付で希望するグループワーク内容をお聞きした上で、グループ分けを行ったことで、参加者の皆さんが興味のある内容でのグループワークを実施できたのかと感じました。

各施設が災害対策として様々な取り組みが行われており、私たちにとっても非常に勉強になる機会となりました。

また、このセミナーでは開催場所を大阪だけでなく、和歌山でも実施しました。「南海トラフ地震」を現実的に捉えている和歌山の病院では大阪よりもマニュアル定着率が高く、意識の高さを感じました。

手術室内での災害対策は病棟とは異なることが多く、不安や疑問を持つ方が多くいると思います。マニュアルの必要性は理解していても、いざ作成しようと思った時に「何から始めれば良いのか分からない」「参考資料が少ない」「他施設のマニュアルを見てみたい」等の意見があると思います。研修の中でマニュアル作成への第一歩、もしくはマニュアル改訂への第一歩として、実際にマニュアル作成・改訂に向けて実践できるように意識して取り組みました。

研修に参加された方がぜひ自施設でマニュアル作成・改訂チームとしてより良いマニュアル作成・改訂に向けて行動されていることを期待しています。

担当：手術看護認定看護師 松原昌城（社会医療法人寿会 富永病院）



手術看護師クリニカルラダーⅢ以上、手術看護経験年数5年以上、教育担当者を対象とし、気道確保困難時のシミュレーションセミナーを開催しました。

参加人数は9施設9名で、シミュレーション教育を過去に経験したことのない参加者や、自施設でもシミュレーション教育に取り組む予定の参加者がいました。参加者からは気道管理ガイドライン、アルゴリズムに沿った対応をシミュレーションを通して学ぶことができた、自施設でもシミュレーション教育を行いたいとの意見を頂き、有意義なセミナーになりました。

セミナーでは気道管理ガイドラインの講義、タスクトレーニング（声門上器具、喉頭鏡、ビデオ喉頭鏡などのデバイスを用い低機能シミュレータで挿管を体験する）とシチュエーション・ベースド・トレーニング（気道確保困難症例を高機能患者シミュレータ HPS を用いシミュレーションの実施）をグループで実施しました。気道確保困難時の講義とシミュレーションのみでなく、看護シミュレーション教育の必要性と効果、施設への還元方法、実施方法の講義も行いました。

手術室におけるシミュレーション教育は現在、多くの施設で行われるようになってきています。研修に参加された皆様が、自施設でのシミュレーション教育の計画、実施にむけて行動されていることを期待します。

担当：手術看護認定看護師 河野幸一（兵庫医科大学病院）



京都府立医大において、「術前訪問・術前外来について考える」というテーマでセミナーを開催しました。寒い中でしたが、多くの方に参加を頂きました。

セミナーは、術前訪問についての基礎、術前外来、術前訪問の実際についてそれぞれ認定看護師が講義を行い、そのあとグループワークを実施しました。参加者の中には、これから施設で術前外来を立ち上げる予定があったり、他施設の術前訪問が実際にどのように行われているか聞いてみたいという要望を持っている方もいました。グループワークは、参加者それぞれの施設の状況を聞いたり、普段の悩みをみんなで相談する場となり、参加者から大変好評でした。

セミナーを通して、多くの手術室看護師が他施設の情報や新しい知見を求めていることを感じました。ファシリテーターとしてグループワークに参加しましたが、施設の地域性や規模などで抱える問題や考え方も様々でした。今後も、参加者同士が自由に話し合える場を提供することが必要だと感じました。

京都・滋賀ブロックの認定看護師会として、地域みなさんに求められる企画を実施していきたいと思えます。

担当：手術看護認定看護師 川原美穂子（京都大学医学部附属病院）

